

宿縁

十月号

千葉県市川市国府台五丁目二十六番三十九号

浄土真宗
本願寺派

中原寺

TEL 0477-372102
FAX 0477-372102

人生の意味と

目的に目覚める

一期一会



『ちようど六十才になった頃でしたが、私は一つの思いを抱きました。私もやがては死を迎える、その時にどういう準備をすればいいのだろうかと考え始めたのです。人は、生れてから二十年くらいの時間を費やして社会に出る準備をします。そして、四十年くらいの社会生活を経て、六十歳で定年を迎えます。それからあと、最近では寿命が延びましたから八十歳まで生きるとすると、二十年という時間が私に残されています。』

その二十年は何のためにあるのだろうか、と私は考えました。そして、社会に出るための準備期間が二十年必要だったのだから、死を迎えるためにも二十年が必要なのではないかと。つまり、死を迎える準備のために二十年という時間が私に残されているのではないかと。思ったのです。しからば死を迎える準備はどうすればいいのか。

私は、死とは肉体の死であっても、魂の死ではないと思っています。私の死というのは、私の魂が新しい旅立ちをしていくめでたい日だと思ふのです。死は悲しいことではなくて、魂が新しい旅立ちをしていく嬉しい日なのです。…』

こう語るの、八月下旬に九十歳で人生を終えた京セラの創業者稲盛和夫さんの言葉です。

稲盛さんについては、技術者として、経営者として、多大な業績を残されましたが、その生涯にわたる活動の背景にあるのは仏教徒として利他(他の人の幸せを願う)の心でありました。そして小さい頃に教えられた毎朝「なんまん(南無阿弥陀仏)、なんまん、ありがとう」と称える実践を終生欠かさなかったことです。

深い人生観に立ち、人を大切に活かし、尊い人徳を身につけられたその一生に私

ちは学ぶべきことがたくさんあると思ひます。

稲盛さんは稲盛財団という財団を作って、毎年「京都賞」というものを三部門で表彰しています。「先端技術部門」「基礎科学部門」「思想・芸術部門」の中で京都賞の特徴は「思想・芸術部門」だそうです。これまで先端技術や基礎科学といった、いわゆる知的なところだけが発達してしまった結果、今日のような「こころ」が失われてしまった状態になったと考へ、「こころ」に関する分野において貢献された方を顕彰する「思想・芸術部門」賞を作ったそうです。

私たちの生活や社会は、間違いなく科学技術の発展によって手間が省かれ合理的になりスピード化されて便利さという恩恵を受けていますが、一方で時間をかける、物事の過程を楽しむ、味わうといったこころの問題がおろそかになって生活にゆとりと潤いを失くしてしまいました。

こうしたことから科学技術への過信は一方で大切な人間性を無視したこころの渇きをきたす危険性ははらんでいます。

思想や芸術は人のこころに潤いをもたらします。「思」も「想」も「念」も「憶」も漢字に表すと違いがありますが、思うこと、考えること、深く思うこと、思いをはせる、などそれぞれに同一な意味合いを持ちます。親鸞聖人が頭わされた『正信偈』に、

・「五劫思惟之摂受、重誓名声聞十方」

(法蔵菩薩はいかにしたら迷いに沈む人々を救い取ることができるとか長い長い間考へをめぐらせて誓いを建て、南無阿弥陀仏の名号をすべての世界に聞こえさせよ

うと重ねて誓われた)と示し、さらに

・「憶念弥陀仏本願、自然即時入必定」

(阿弥陀仏の私を常に摂め取って捨てないという、本願のはたらきを心中に絶えず思い忘れねば、阿弥陀さまのおのずからなるはからいによって、必ず救われる身にならしめられる)とお示しになっています。

「芸術」とは、人間の知覚、感覚、情感に作用して、その状態を変化させ美的価値を創造・表現しようとする活動ですが、絵画、演劇、音楽、詩歌などです。

キリスト教の讃美歌や仏教の讃仏歌などは、その神や仏の教えを讃える音楽的表現ですし、親鸞聖人の和讃も七五調の句で仏やその教え、先徳を和語で讃えたものです。

・弥陀の名号となへつつ
信樂まことにうるひとは
憶念の心つねにして

仏恩報ずるおもひあり 「浄土和讃」

(口先だけではなく、阿弥陀仏の平等の大慈悲心に心を開いて、その心で、念仏の日暮らしをする人は、たえず仏さまのご恩に感謝する思いが伴っているのです)

阿弥陀仏の大慈悲心とは、平等心であり、どのようなものでも摂め取って捨てないという名号のはたらきですから、そのお心を疑いなく信じたものは同時に、阿弥陀如来の尊いはたらきに参加せしめられるのです。

それはこの私にとって、死ぬ身は終わって浄土へ生まれる身に変換されるという永遠のさと(無量寿)への道の始まりです。

「南無阿弥陀仏はめでたき言葉なり!」だから称名念仏すべきものなのです。

【寺灯雑記】

○お天気に恵まれ彼岸会法要
9/23

今年の秋のお彼岸は、台風接近の影響で天候が不安視されていましたが、お中日の彼岸会法要は心配していた雨に降られることなく、参詣者の皆さんとご一緒にお勤めさせていただきました。

法要での「讃仏偈」の読経後には、築地本願寺合唱団の楽友会（がくゆうかい）の皆さんにその歌声を披露いただきました。

二十人を超える団員の合唱は迫力満点で、私たちが普段唱和している「真宗宗歌」や「恩徳讃」も荘厳な趣きを見せてくれます。

また、「正信偈」をコーラスの組曲として壮大で幻想的に歌い上げてくださったり、東日本大震災に被災した福島県南相馬市の生徒たちが作詞した「群青」など全七曲をエレクトーンの演奏で聞かせくださいました。



【仏事Q&A】

Q、西本願寺と東本願寺がある理由は何ですか？

本願寺は、京都東山大谷に親鸞聖人の廟堂を創建されたことに始まります。その後、この廟堂を本願寺と名のるようになり、山科や大阪など各地を移転して、天正十九年（一五九一）年に現在の地（京都下京区堀川通花屋町下ル）に寺基を定めました。

その翌年、本願寺第十一代・顕如（けんによ）上人が往生されると、長男の教如（きょうによ）上人が一度は本願寺を継がれました。しかし、顕如上人は三男の准如（じゆんによ）上人に本願寺を譲ることを記していたため、豊臣秀吉によって教如上人は隠居処分とされ、准如上人が本願寺を継職されました。これが現在の「西本願寺」です。

一方、教如上人は秀吉の没後、慶長七（一六〇二）年に京都烏山七条の地を徳川家康から寄進され、そこに一寺を建立されました。これが現在の「東本願寺」です。これによって本願寺は二つに分かれることになり、所在地から「西本願寺」と「東本願寺」（教如上人が建立）と呼ばれるようになりました。

なお東京の築地本願寺は、元和三（一六一七）年、准如上人のとき西本願寺の別院として建立され、築地別院と称しましたが、現在は西本願寺の直轄寺院として築地本願寺と称しています。

『仏事Q&A 浄土真宗本願寺派』

【ブツダの教え 「お経」のことば】

「仏の心」

仏の心とは大慈悲のことである。あらゆる手だてによって、すべての人びとを救う大慈の心、人とともに病み、人びととともに悩む大悲の心である。

ちようど子を思う母のように、しばらくの間も捨て去ることなく、守り、育て、救い取るのが仏の心である。「おまえの悩みはわたしの悩み、おまえの楽しみはわたしの楽しみ。」と、かたときも捨てることのない。

仏の大悲は人によって起こり、この大悲に触れて信ずる心が生まれ、信ずる心によってさとりが得られる。それは、子を愛することによって母であることを自覚し、母の心に触れて子の心が安らかなようになるようなものである。

ところが、人びとはこの仏の心を知らず、その無知からとらわれを起して苦しみ、煩惱のままにふるまって悩む。

罪業の重荷を負って、あえぎつつ、迷いの山から山を駆けめぐる。

『観無量寿経』『維摩経』『首楞嚴経』『大涅槃経』

【法座・行事のご案内】

○婦人会法座

十月一日(土) 一時

- ・御文章に学ぶ(一帖第八通) 前任職
- ・仏教讃歌と座談会

○門信徒会役員会

十月一日(土) 三時半

*ご欠席の方はお寺にご連絡ください。

○子育てサロン(パンダっ子)

十月十一日(火) 十一時～二時

○教行信証を学ぶ

十月二十九日(土) 二時

・方便化身土巻 前任職

☆第三十二回文化講演会

十月二十二日(土) 午後一時半

場所：山崎製パン企業年金会館

(市川駅徒歩三分)

講師：中島岳志氏

(東京工業大学)

リベラルアーツ教育研究員教授)



講題：「利他と他力」

著書：「親鸞と日本主義」(新潮選書)

「思いがけず利他」(ミシマ社)

「自分ごとの政治学」(NHK出版他)

*事前申し込み・参加費は不要です。

どうぞ皆さんお誘い合わせのうえ、お気軽にご参加ください。

【十月の掲示板のことば】

常に自分自身を

原点に戻してくれるもの

それが南無阿弥陀仏